

令和6年6月18日(火)

令和6年度 大阪府立桜塚高等学校 第1回 学校運営協議会

場 所 会議室

時 間 18:00~19:30

准校長 今西 良介

委 員 古川 知子、島村 宏二、北之坊 晋次、永井 敏輝、勝部 麗子、崎阪 治、小川 美香

事務局 小西 基裕(教頭)、根岩 直希(首席・生徒指導主事)、堺 啓介(教務主任)、

大矢 征礼(進路指導主事)、西原 萌(保健主事)、室津 敬一郎(主査)

1 校長・准校長 挨拶

2 委員紹介及び事務局員紹介

3 (1) 会長・副会長の選出

会長 古川 知子

副会長 島村 宏二

(2) 学校運営協議会実施要項他について

4 議事(報告事項)

(1) 令和5年度 学校評価について

准校長: 令和5年度の第三回学校運営協議会から内容は変わっていないが、一部数値が未確定だったものが確定している。達成・未達成の値が顕著に表れているデータを中心に説明する。令和5年度の学校経営計画の自己評価であるが、「確かな学力の育成と生きる力の獲得」の授業時間の確保について、短縮授業日をさらに削減するという目標を設定していたが、短縮授業後の放課後の時間は担任が生徒や保護者と面談する時間として必要であり、特に生徒数の多い1年次においては十分な対応ができないことから、今後はバランスを見ながら取り組んでいきたい。

「未来の想像に向けた希望と意欲を育てる支援体制の確立」の生徒に寄り添った支援体制の構築については、新入生中退率が15%という結果になった。理由としては引越越しや明確な意思をもっての進路変更などがあげられる。今後は望まない退学・なんとなくの退学がなくなるように重ねて指導していく。

次に「公務の効率化と働き方改革の推進」について、こちらは全ての目標を達成することが出来た。会議のペーパーレス化について導入当初から問題なく移行することができている。令和6年度は教員が4名増員されたので1つ1つの校務を丁寧に、生徒と向き合う時間を多く確保できるように努めていく。

「開かれた学校運営と地域連携」の授業の公開については、昨年度の第三回学校協議会でも助言いただいたが、保護者に伝わっていないという現状であったので、今後は保護者に対しても広くアナウンスを行い、授業参観を促していく。

令和6年度 学校経営計画について

准校長：令和5年度の第三回学校運営協議会から内容は変わっていないが、今年度より新たな考え方を加えた部分を中心に説明する。

中期的目標、「確かな学力の育成と生きる力の獲得」の項目について、「令和の日本型学校教育」という抽象的な文言をあえて削除し、「自ら考え、正しく判断し、行動する力」という言葉を追加した。夜桜を卒業したあとに、社会を生きるための力が養成されているかについて不安な面がある。夜桜の生徒の大半は小中学校時代に不登校歴があり、様々な配慮を受けてきた。夜桜でも生徒の特性に応じた対応を行っているが、社会ではその配慮がほとんどなくなってしまうのが現状である。生徒が自らの特性や困りごとを理解し、それとうまく付き合いながら独立することができるサポートが必要だと強く感じている。「誰も取り残さない教育」という言葉がひとり歩きをはじめ、児童・生徒をこの先どのように導いていくのかという視点が疎かになっている。今この瞬間をトラブルなくやり過ごそうという動きが強くなっているのではないかと感じている。現在の学校に大きなマンパワーがないことも大きな原因であるが、良かれと思って学校が対応してきたことが生徒や保護者の意に反し関係が悪化するケースを避けて、最小限の対応に終始することが悪循環になっている。夜桜では常に生徒が独り立ちするために必要なことは何か、という視点をもって指導にあたる。

次に、「未来の創造に向けた希望と意欲を育む支援体制の確立」の退学や留学について、防止すべき中途退学を「諦めや失望による中途退学」ということにした。明確な進路変更での退学はポジティブな退学ととらえることができる。よって「なんとなく」での退学の防止に努める。

次に、「校務の効率化と働き方改革」について、昨年度と同様に、目標を達成できるように取り組みを継続していく。

「開かれた学校運営と地域連携」について、いかにして生徒と社会をつなぐことができるか、をテーマに活動を検討している。校内では教員と信頼関係ができ、友人関係も良好、保護者の支えもあり、学校生活を送ることができているが、就職後すぐに仕事を辞めるといったような好ましくない現象が見えている。夜桜での4年間で社会とのつながりがもてるように注力していく。

〔質問・意見〕

委員A：学校経営計画に沿った教育活動を通じて、自信を持つ、希望を持つ、人に認められるといった経験を培ってもらい、望まない退学をする生徒数を少なくできるように応援する。

委員B：昨年度の退学者6人の時期はいつごろか。

准校長：入学してすぐに退学する生徒もいれば、在籍はしているが学校にはほとんど来られず、面

談の時期や年度末に退学するケースが多い。年度の途中で退学するケースはほとんどない。
委員A：外部の力という点について、日本の文化を知らない外国籍の生徒のために、ポストファミリーのような外国籍の生徒の家族を応援できるような支援を考えていくことを始めていければと思う。

(2) 令和7年度 教科用図書選定について
教科書選定・採択の仕組みの説明

(3) 令和6年度 行事予定表について

教務主任：5月21日に遠足を実施した。例年は土曜日に実施していたが、予約が取れなかったり、混雑していたりすることから、今年度は平日に実施した。特に問題はなかった。

9月6日は定時制が休業日になっている。これは例年、全日制が文化祭を土日に開催していたものを様々な事情で金曜日に実施することになり、その影響で教室が使用できなくなるためである。

修学旅行が10月23～25日で開催される。場所は北海道である。

〔質問・意見〕

委員B：以前は3泊4日で行っていたと思うが短くなったのか。コロナの影響はゼロになったのか。

教務主任：3泊4日で行っていた学年もあったが、基本は2泊3日であり、金銭的な観点からみても厳しい。コロナに関してはコロナ以前と同様に対応する。

(4) 生徒指導について（昨年度総括と本年度取り組み）

生徒指導主事：生徒数の多い3年生で指導件数が多く、4年生に関しては特定の生徒が繰り返し指導されるケースがあったため指導件数が多かった。令和5年度は令和4年度と比べてSNSによるトラブルが多い傾向にあった。そのため令和5年度の1月にNTTドコモから講師を呼びSNSの使い方に関する講演授業を行った。令和6年度の取り組みについて、昨年度の流れを受け、1年生にスマートフォン・SNSの使い方講習を行った。また、生徒指導に関する校内取り決めの一部を改正し、スマートフォンの使用に関するルールを改正した。

学校行事については、球技大会を例年より1日短くし、経験の幅を広げる目的で体育祭を実施する予定である。文化祭は昨年度よりコロナ以前の水準に戻して実施している。

部活動に関しては体験期間中のいつ行けばよいかわからないという問題を受け、部活動体験日を1日設けて1人1つ部活動を体験してもらった。これをきっかけに部活動に入部した生徒もいる。

〔質問・意見〕

委員C：総括のところで特別指導とは何を指しているのか。

生徒指導主事：担任や授業担当者が行う指導とは異なり、生徒指導主事から行う指導や停学指導のことである。

委員C：生徒指導に関する校内取り決めで変更した内容は何か。

生徒指導：電子タバコに関する記載がなかったため、タバコに類するものは全面禁止にすると変更した。また特別指導を受ける際に、未成年者は保護者の付き添いを必須としていたが、成人年齢が18歳に引き下がったので、基本的には20歳未満は付き添ってもらおうが、どうしても保護者の都合がつかない場合は付き添いを必須としないと変更している。

(5) 令和5年度 進路実績と今年度の取り組み

進路部長：令和5年度の卒業生は26名で、うち1名は通信併修生である。就職が14名、進学が9名、アルバイトが2名、未定が1名である。就職のうち、学校斡旋による就職が12名、縁故・自己開拓による就職が2名である。応募前職場見学に行った企業数は36社で1人あたりの平均見学数は3、4社である。進学のうち、4名が大学進学を希望しており、5名は専門学校進学を希望している。未定の生徒に関しては、キャリアブリッジと連携して卒業後もサポートしてもらえるよう、お願いしている。今年度は卒業予定数が39名で、うち1名が通信併修生である。就職希望が23名であり、自己開拓が今年はいくくなる見込みである。進学希望が8名であるが増える可能性はある。その他・未定が8名であるが4月・5月の段階での数値なので例年通りである。昨年度からの変化として、Handy 進路指導室を導入し、いつでも求人票を見られるように準備を進めている。

[質問・意見]

委員B：早い段階で就職について考える機会があればいいが、4年生でないと職場見学にいけないのか。

進路部長：基本的には卒業年次の見学であるが、会社見学に行く学校もあると聞いているので、そのような形であれば早くからいくことは可能である。また1年のときからアルバイトをするように言っているが、就職希望者の中にアルバイトをしたことがないという生徒もいるので、その生徒は見学に多く行かせるなどしてイメージをつけさせたい。

(6) 令和6年度 支援教育計画について

支援教員C0：学習支援については昨年度説明した内容と同じ支援を教員間で共有し継続して行う。

多言語生徒への支援について、ネパール語を母語とする支援員に来てもらい、水曜日と木曜日の始業前に日本語指導を行う。その際に、日本生活や学校生活に馴染めないことへの困り感を担任や教科担当者等に共有する体制を構築している。通訳の方に毎回きてもらうことは厳しいので、翻訳アプリを使いながら対応しているが、正確に伝達できないこともあるので、課題になっている。英語が得意な生徒は、プリントに英訳をつけることで理解できるようにサポートしている。日本社会に出ることを考えると大変ではあるが、知らない単語が大量にあると授業についていくのが大変ではあるので、サポートをできる体制をまずは構築する。

SCについては今年度から不登校支援の重点校となったことで、年間10回から35回と回数が増加している。メンタル面でのケアが必要な生徒に手厚く対応できるようになると

考えている。生徒が足を運ぶのが難しい場合は保護者にSCと話してもらいなど、養護教諭とも連携して行う。また、SCに生徒や教員に対して講義を行ってもらい、教員の知識も深めたい。SSWについては、個人面談で悩みを抱える生徒が気軽に相談できる体制を敷いている。これも、生徒がうまく説明できない場合は保護者に話してもらい。また生徒が希望する場合に関連機関に同行して話を聞いたり、連携して会議したりすることができる。目的として、卒業後の安心感や独り立ちの手助けを目指す。キャリアブリッジについては、始業前と放課後に居場所づくりとして場を設けており、スタッフと話して悩みごとや困りごとを聞いてもらい共有している。またアルバイトを紹介してもらったり、就職希望の生徒にサポートしてもらったりしている。

〔質問・意見〕

委員B：重点校になったとあったが、どのような目的でどのような効果が期待されるのか。

准校長：令和6年度の大阪府教育委員会の目標として不登校支援に力を入れている。今回の重点校決定は、その一環である。夜桜に通う生徒は小学校や中学校で不登校歴のある生徒が多いため、その生徒たちが再び不登校にならないように支援していくことを教育委員会事務局と話している。

委員A：スクールサポーターは有償か。

准校長：種類がいくつかある。1つは大学院生が心理士の免許を取るための教育分野の実習先として選んでもらっている。1つは卒業生に通訳として来てもらっている。どちらの場合も謝金が出ている。

第2回学校運営協議会（予定）

日時：10月10日（木） 18:00～